



笑顔と輝きに満ちた谷原中

谷原中だより

練馬区立谷原中学校
校長 山根 浩孝
平成 25 年 12 月 25 日
第 16 号

谷原の輪をひろげよう

校長 山根 浩孝

いよいよ今年もあとわずかになりました。街頭では、赤や緑のイルミネーションがきれいに飾り付けられ、店頭には、色とりどりの年賀はがきやカレンダーが置かれています。行き交うそれぞれの人は、年末年始の準備に向けて皆忙しそうです。

谷原の杜の木々の葉もすっかり少なくなり、冬本番の季節です。先日のニュースで報道された 2013 年を表す漢字は「輪」でした。2020 年東京五輪の開催の決定や、富士山の世界文化遺産登録など日本が輪になって歓喜にわいた年であり、相次ぐ自然災害にも支援の輪が広がったことなどが理由だそうです。谷原中学校でも、11 月のふれあい月間の取り組みでは、「谷原の輪を広げよう」キャンペーンを行い、多くの生徒がいちょうの葉に感謝の思いを込めたメッセージをたくさん残しています。



さて、この 1 年は皆さんにとってどのような年でしたか。自分の目標どおりに達成できましたか。大変充実した学校生活を過ごし、大きく成長できた人もいます。しかし、その反面、目標の通りに行かず本来の力を十分に発揮できなかった人もいると思います。目標を達成できた人は、より高い目標に向かって前進してください。また、思い通りに行かなかった人は何がいけなかったのかをよく考え、勇気をもって初志を貫こうとする強い気持ちをもってください。「反省のない人間は成長せず」と言われています。じっくり反省し、失敗から謙虚に学び、あきらめずに挑戦することです。人間には自分でも驚くほどの強靱な知恵と能力が隠されています。それを少しでも引き出せるように努力してほしいと思います。

この 4 月からのことを思い返すと、日々の学習活動や行事を通して、成長する姿が見られました。修学旅行、運動会、臨海学校、文化発表会等、それぞれの行事を通して谷原中学校の生徒がひとつの輪となりました。運動会や文化発表会で見せてくれた団結、協力する姿は多くの人たちを感動させました。これからも、一人一人が思いやりの心を持ち、谷原の輪をさらに広げていってほしいと思います。今年もあと数日となりましたが、谷原中学校の生徒、保護者、地域の皆様が、無事穏やかな年末年始を迎えられることを心より願っています。また、学校評価アンケートへの協力ありがとうございました。谷原中学校の教育活動にご理解ご協力いただきました保護者、地域の皆様に、心より感謝申し上げます。

谷原中学校では、これまで保護者の皆様の協力を得て、暴力のない学校づくりに取り組んできました。今月は、学校として、暴力のない楽しい学校づくりを目指し、生徒に「暴力はいけないこと」について講話を行い、暴力についてのアンケート調査を行いました。いじめや暴力は、大人でも子どもでもけっして許される行為ではありません。各ご家庭においても、お子様の声に耳を傾け、学校生活について話し合う機会をもち、心配な点があれば、いつでも、どんなことでも学校に遠慮なくご相談ください。

○ 練馬区中学校駅伝大会 11月30日(土) 光が丘公園陸上競技場で、練馬区中学校PTA連合協議会主催の第12回練馬区中学校駅伝大会が行われました。本校からは男女1チームずつが参加しました。当日は、選手の他に、部活動の生徒や先生、保護者、PTA役員の方も大勢来てくださり、たくさんの声援を送ってくれました。大応援団の中、男女とも一生懸命に走り抜き、しっかり襷をつないでくれました。お手伝いや応援に来てくれた地域・保護者・生徒の皆さんに感謝いたします。ありがとうございました。



□ 北原小学校との音楽交流会 12月5日(木) 1校時、北原小学校小学5、6年生との音楽交流会を行いました。2年A組の生徒が代表として参加し、先輩らしい合唱を小学生に披露してくれました。小学生からは、「素晴らしいハーモニーだった。」「声が響いていた。」という感想がありました。中学生が小学生の間に入って一緒に合唱をする場面や小学5、6年生それぞれによる合唱も聴かせてくれる場面もあり、あっという間の1時間でしたが、小学生、中学生ともに楽しい時間を過ごすことができました。

☆ 谷原音楽祭 12月8日(日) 12時から南が丘中学校で、青少年育成谷原地区委員会の文化事業、第7回谷原音楽祭が行われました。当日は15団体の発表があり、会場はとても盛り上がりました。谷原中学校からは吹奏楽部1、2年の生徒が参加し、「あまちゃん」「RPG」の2曲を演奏しました。人数は少ないですが、みんなでしっかり協力でき、素晴らしい演奏を地域・保護者の方に聴いてもらうことができました。



冬休みを前に

副校長 吉川 浩司

師走に入り、放課後に三年生の面接練習がありました。かしこまった形で模擬面接を行い、その後に指導を入れるという繰り返しを一日に約5～7名。昼過ぎから始め、終わった頃には窓の外は暗くなっています。しかし、そのおかげで今までは挨拶程度にしか言葉を交わしたことの無い50人以上の三年生と話をすることができました。

「谷原中学校は、どんな学校ですか。」「はい、生徒一人一人挨拶がよくできて、明るい雰囲気のある学校です。」「谷原中学校では、いじめはありましたか。」「いいえ、ありませんでした。」「中学生生活の思い出は何ですか。」「はい、合唱コンクールでクラスみんなの心が一つになれたことです。」「好きな言葉は何ですか。」「ありがとうございます。心が暖かくなります。…」多くの三年生は、そう言いました。面接試験で好感度を得るための答えではなく、それが本心から出ている言葉であると信じたいと思いました。

「受験で大変なんだから人のことなんか知らないよ。」「受かったから好き勝手やっていいんだ。」「あいつ何も苦労しないで受かってくやしい。」「もうどうだっていいよ。」「周りみんなが敵だ。…」そんな残念な集団とは違う、みんなで進んでいける学年。最後の一人の進路が決まるまでみんなで見守っていく仲間。進路が決まってもそれをゴールでなく新しいスタートと考え、卒業までしっかり生活していける生徒。そんな谷原中学校でいてほしいと思いました。